



2026年6月30日

北越コーポレーション株式会社
ダイハツ工業株式会社
北越物流株式会社
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社
日本貨物鉄道株式会社

鉄道を活用した「紙」と「自動車」の異業種ラウンドマッチング輸送が 「第1回 日本物流大賞」において「モーダルシフト賞」を受賞

北越コーポレーション株式会社（新潟県長岡市、代表取締役会長グループ CEO：岸本 哲夫、以下「北越コーポレーション」）、ダイハツ工業株式会社（大阪府池田市、代表取締役社長：井上 雅宏、以下「ダイハツ」）、北越コーポレーションのグループ会社である北越物流株式会社（新潟県新潟市、代表取締役社長：丸山 裕司、以下「北越物流」）、NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：堀切 智）のグループ会社である日本通運株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：竹添 進二郎、以下「日本通運」）、日本貨物鉄道株式会社（東京都港区、代表取締役社長兼社長執行役員：犬飼 新、以下「JR貨物」）は、一般社団法人日本物流団体連合会主催の「第1回日本物流大賞」において、部門賞である「モーダルシフト賞」を受賞いたしました。



(写真)「第1回 日本物流大賞」表彰式における受賞者 (2026年6月29日)

※左から、北越物流 物流業務部長 佐藤広之、ダイハツ 物流部長 松浦伸英、
日本物流団体連合会 会長 長澤仁志、北越コーポレーション 製品物流部長 永原孝一、
日本通運 執行役員 (モビリティセールス部担当) 佐々木治、JR貨物 執行役員
営業部長 麦谷泰秀

1. 受賞内容

北越コーポレーションが課題としていた復路の空コンテナ輸送区間の京都貨物駅（京都府京都市）から焼島駅（新潟県新潟市）において、ダイハツの小型自動車を積載する輸送スキームを、北越物流、日本通運とJR貨物の協力により構築し、2025年2月より異業種ラウンドマッチング輸送を開始しました。

今回、異業種である2社が物流面で連携を図ることで、空コンテナ回送の解消による物流効率化、CO2排出量削減による環境負荷低減など持続可能な物流の実現に貢献した取り組みが高く評価され、受賞に至りました。



北越コーポレーション、ダイハツ、北越物流、日本通運、JR貨物は、今後も各社が有する物流資源の有効活用や効率的な仕組みの構築に取り組むことにより、物流面での脱炭素化や、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

※過去のプレスリリース（2025年3月13日）

鉄道を活用した紙と自動車、異業種ラウンドマッチング輸送の開始について
～異業種連携による効率的で持続可能な輸送体系を構築～

https://www.jrfreight.co.jp/info/2025/files/20250313_01.pdf

2. 日本物流大賞について

一般社団法人日本物流団体連合会による表彰制度で、これまで同連合会が実施してきた「物流環境大賞」および「モーダルシフト優良事業者大賞表彰」を発展的に統合したもので、従来の「環境負荷低減」や「モーダルシフト」のみならず、「事業者間連携」、「先進技術活用」、「働き方改革貢献」など、持続可能な物流の実現に向けた優れた取り組みを広く顕彰するものです。

※「第1回日本物流大賞」の受賞者

(一般社団法人日本物流団体連合会 2026年6月5日プレスリリース)

<https://www.butsuryu.or.jp/20260605.pdf>

【参考】JR貨物では、部門賞である「モーダルシフト賞」のほか、「奨励賞」を7件受賞しました。

- ・モスフードサービス主導の荷主・倉庫・輸送連携による物流2法改正対応型鉄道モーダルシフト

受賞者	株式会社モスフードサービス、JR貨物ロジ・ソリューションズ株式会社、日本貨物鉄道株式会社
概要	モスフードサービスが主導し、物流事業者と連携して、物流工程全体を再設計した取り組み。従来の長時間待機時間、低積載率、役務内容の不明確さといった構造的課題と物流2法改正にも対応するため、荷待ち・荷役時間削減（検品レス導入、トラックバース予約システム活用、貨物前日準備徹底）、積載率・実車率向上（三温度帯同時配送、集荷日の柔軟な調整）、適正な荷役・荷待料金収受（役務内容・対価の書面化）、および鉄道モーダルシフト（そのために発注締切時間前倒しを実施）を実施。その結果、CO2排出量83.5%（143.2t）削減、長距離トラック運転時間89.2%（1,391時間）削減を達成、持続可能な物流モデルを構築。

- ・“積む”を変えれば、“運ぶ”が変わる！青果輸送の進化

受賞者	株式会社シジシージャパン、株式会社ラルズ、株式会社フレスタ、アクシアルレーベル株式会社、株式会社マミーマート、日本貨物鉄道株式会社、全国通運株式会社
概要	全国の中堅・中小スーパーが物流・商品開発等の分野で協業する際の本部機能を担うシジシージャパンが、青果物輸送における荷役・積載方法を改善し、鉄道モーダルシフトに取り組んだ事例。トラック輸送だけでなく鉄道輸送においても、バラ積みからパレット積みへ転換し、積込・待機時間とドライバー負担を削減、さらに、みかん等においては段ボールから通気性の高いオリコン（折りたたみコンテナ）へ変更してムレ・湿気による品質劣化を改善、また玉ねぎではパレット化・鉄道輸送でも荷崩れしない積付け方法を確立。さらに、CGCグループ内で成功事例を共有し、ラルズ・フレスタ・アクシアル・マミーマートなど資本関係のない企業にも水平展開。

- ・キノコ類輸送の効率化と鉄道モーダルシフト

受賞者	全国通運株式会社、ユキグニファクトリー株式会社、中越通運株式会社、博多運輸株式会社、日本貨物鉄道株式会社
-----	--

概要	<p>ユキグニファクトリーのキノコ類の鉄道モーダルシフト案件。従来の「新潟→関西 DC→九州 DC」トラック中継輸送を、冷蔵トラック確保が難しくなってきたことから 31ft 温度管理コンテナを活用した鉄道一貫輸送へ転換、関西 DC での積替作業を一部撤廃し、作業効率とリードタイムの安定性を大幅に向上。同コンテナは遠隔監視システム (GENES) を搭載し、庫内温度・位置情報・軽油残量・異常アラームをリアルタイムで監視できるため、鮮度維持が重要なキノコ類でも鉄道輸送に適合した品質管理が可能となった。その結果、CO2 排出量 81.2t (84%) 削減、トラック運転時間 1,269 時間 (90.7%削減) 削減を達成。北陸信越運輸局の総合効率化計画 (物効法) の認定案件。</p>
----	---

・ 鉄道・トラック双方の空回送削減を実現した回送連携型モーダルコンビネーション

受賞者	<p>若松梱包運輸倉庫株式会社、サントリーホールディングス株式会社、サントリーロジスティクス株式会社、JR 貨物ロジ・ソリューションズ株式会社、全国通運株式会社、日本貨物鉄道株式会社</p>
概要	<p>従来、鉄道・トラックそれぞれで個別に発生していた空回送区間を、回送区間同士の組み合わせにより実荷輸送へ転換し、空回送を大幅に削減した案件。モーダルシフトの推進による CO2 排出量削減、駅構内の積替施設確保による効率的な輸送、トラックドライバーの運転時間削減および実車率向上を行うことで、回送区間の有効活用と限られた輸送アセットの最適配置による、コスト低減および輸送効率化の両立を実現。その結果、CO2 排出量 191.9t (70.8%) 削減、ドライバー運転時間 1,049 時間 (65.5%) 削減。</p>

・ 20ft コンテナラウンド輸送体制 (新潟～大阪～愛媛) の構築

受賞者	<p>大王製紙株式会社、北越コーポレーション株式会社、ダイオーロジスティクス株式会社、北越物流株式会社、日本貨物鉄道株式会社、谷川運輸倉庫株式会社、日本通運株式会社、リンコー運輸株式会社</p>
概要	<p>大王製紙と北越コーポレーションによる、新潟～大阪～愛媛の鉄道一筆書き輸送・モーダルシフトの取り組み。①新潟から大阪で北越コーポレーションの紙製品輸送、②大阪から愛媛で古紙輸送、③愛媛から新潟でエリエールの紙加工品輸送、再び①に戻る一筆書きを構築したことにより、従来発生していた、大阪から新潟の鉄道コンテナ空回送と、愛媛⇔新潟の長距離トラック輸送を同時に解消。北越コーポレーションの 20ft 私有コンテナを活用、エリエールの紙加工品のパレット選定、古紙 9 ベール積載を可能にする積み方の再設計、鉄道ダイヤに合わせたスケ</p>

	<p>ジュール最適化など、多数の技術的・運用的課題を克服し、積載効率最大化と安全性を両立。その結果、CO2 排出量 67.9t (70%) 削減、トラック運転時間 1,654 時間 (86%) 削減。空コンテナを資源として再活用し、3 拠点を結ぶ循環型モーダルシフトを実現した先進事例。</p>
--	---

・ 鉄道モーダルシフト化による CO₂排出量と運転時間の削減【三重県～熊本県】

受賞者	<p>ニッコン株式会社、日本貨物鉄道株式会社、日本フレートライナー株式会社</p>
概要	<p>ニッコンが、三重県から熊本県間の輸送（一部）を、陸送から鉄道モーダルシフトした取り組み。同区間の自動車部品輸送は従来、通常及びダブル連結トラックと内航海運を併用した輸送体系だったが、BCP 対応力を更に高めるためこれに鉄道を追加。同社初となる U49A 型 31ft ウイングコンテナを 5 個新造、積載効率を維持したまま大型トラックから鉄道へ移行することを可能とした。また熊本発の追加貨物を確保して往復運行を実現。その結果、CO2 排出量 73.7%削減、運転時間 73.1%削減。</p>

・ 14m トレーラー活用による「トラック×鉄道」のハイブリッド最適化モデルの構築

受賞者	<p>佐川急便株式会社、プレミアムウォーター株式会社、日本貨物鉄道株式会社、JR 貨物ロジ・ソリューションズ株式会社</p>
概要	<p>佐川急便が、荷主であるプレミアムウォーターの輸送（山梨から北海道）を、海上輸送から鉄道輸送に切り替えた案件。フェリー輸送は燃料サーチャージの変動があり、かつ港湾までの陸送距離が長かったため、更なる CO2 削減のため、鉄道輸送を選択。切替にあたり、14m トレーラーにより 24 パレットを一括集荷（13m トレーラ比で荷役回数削減可）、新座貨物ターミナル駅の積替ステーションを利用し、12ft コンテナ 4 基にちょうど 24 パレットを積載。その結果、CO2 排出量 205.9t (48%) 削減、荷役回数削減と作業標準化により労働負荷も軽減。3 日目 AM という従来のリードタイムも維持し、環境・コスト・効率・品質を同時に満たす先進的な GX 型物流モデル。</p>